

米国における 養鶏アニマルウェルフェアの動向

(株)イシイ代表取締役社長
竹内正博

(1) はじめに

養鶏アニマルウェルフェア(AW)の長期的課題は、採卵鶏ではケージフリー対応、肉用鶏では成長の遅い鶏種(SG=Slower Growing)への対応であると思う。「米国における養鶏アニマルウェルフェアの動向」と題して、AWに関する最新の話題を提供したい。

(2) 米国における採卵鶏アニマルウェルフェアの動向

(2-1) 採卵鶏ケージフリー飼養方式

採卵鶏のケージフリー卵生産羽数予測が米国農務省(USDA)から発表されている。USDAの資料(表1)によると、2019年7月現在のケージフリー飼養方法比率は全飼養羽数の21・6%となっている。残り78・4%の中に、2%のエンリッチドケージ飼養が含まれている。2015年から2018年の3年間に、米国の採卵鶏飼養羽数は2・74億羽から3・25億羽に18・6%増加しているが、ケージフリー比率は

8・6%から18・4%に9・8%増加している。増えた採卵鶏の53%(9・8%÷18・6%)はケージフリー飼養と推測できる。2018年から2019年の1年間に、米国の採卵鶏羽数は3・25億羽から3・31億羽に1・8%増加しているが、ケージフリー比率は18・4%から21・6%に3・2%増加している。既存のケージがケージフリーに変更されたと推測できるので、近年ではケージフリーに変更可能な多段式ケージ設備(Convertible Cage)の建設が増えてきていると思われる。



コンバータブルケージ

表1 米国ケージフリー飼養羽推移(出所:USDA)

as of July 2019

Cage-Free Flock Estimates	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011
Total U.S. Cage-Free Flock:	21.6%	18.4%	16.6%	12.3%	8.6%	5.7%	5.9%	6.0%	5.4%
Layers (millions)	71.4	59.9	52.4	38.4	23.6	17.2	17.1	16.9	15.2
USDA Organic Cage-Free:	5.3%	5.2%	5.1%	4.5%	4.2%	2.9%	2.8%	3.0%	2.6%
Layers (millions)	17.5	17.0	16.0	13.9	11.4	8.7	8.2	8.5	7.4
Non Organic Cage-Free:	16.3%	12.5%	11.5%	7.9%	4.5%	2.8%	3.1%	3.0%	2.8%
Layers (millions)	54.0	42.9	36.4	24.5	12.2	8.5	8.9	8.3	7.8
UEP Cage-Free	14.9%	12.0%	10.4%	note: data prior to 2017 reflects combined non-organic cage-free production from born/aviary, free-range, and pasture systems)					
Layers (millions)	49.3	39.0	32.9						
Other Cage-Free	1.4%	1.2%	1.1%						
Layers (millions)	4.7	3.9	3.5						

(2) EU採卵鶏飼養方式

USDAの予測によると、2026年までに全米全鶏卵生産・消費量の67.5%がケージフリー卵に変わることになる。2026年の販売先別ケージフリー卵個数内訳は、0.2%の病院と旅行、0.6%のドルとバラエティー、0.8%のコンビニとドラッグストア、2.4%の食品製造、3.8%のフードサービス、8.2%のレストラン、51.4%の小売店と予測されている。ケージフリー卵が急激に伸びる理由は、動物愛護団体の活動によってケージ飼養禁止州法が成立、2025年までに多くの小売店・フードサービス・レストラン等がケージフリーで飼育された鶏卵しか購入しないと公表しているからである。

一方、EUの採卵鶏飼養方式は理事会指令1999/74/ECにより、改良型(エンリッチド)ケージ以外でのケージ飼養については、2003年1月以降の新設が禁止され、2012年1月以降は使用自体が禁止になった。また、

2004年からはEU域内で販売される卵に採卵鶏の飼養方式が番号(3:2:1:0)で印字され、3はエンリッチド含むケージ、2はケージフリー、1はフリーレンジ、0はオーガニックとなっている。

EU採卵鶏飼養方式比較(出所: EU Commission)は表2の通りである。2018年の飼養方式の内訳は、50.4%のエンリッチドケージ、28.5%の屋内ケージフリー、15.7%のフリーレンジ、5.4%のオーガニックとなった。ケージフリー比率は、米国の21.6%と比較して、EUでは49.6%となっている。2015年から2018年の間でみると、EUでは採卵鶏羽数は8.6%増加しているが、すでにエンリッチドケージ設備が完成しているため、ケージフリー比率の伸びは43.9%から49.6%へ5.7%の増加と少ない。増えた採卵鶏の66%(5.7%÷8.6%)はケージフリー飼養と推測できる。こうした理由で、図1のように2010年と比較して、2015年と2018年のEU採卵鶏飼養方式は主にエンリッチドケージとなった。

表2 EU採卵鶏飼養方式比較(出所:EU Commission)

飼育方式	2010年		2015年		2018年	
	成鶏羽数 (百万羽)	比率 (%)	成鶏羽数 (百万羽)	比率 (%)	成鶏羽数 (百万羽)	比率 (%)
ケージ	238	65.5%	215	56.1%	210	50.4%
従来型ケージ	165	45.4%	0	0.0%	0	0.0%
エンリッチドケージ	73	20.1%	215	56.1%	210	50.4%
ケージフリー	125	34.5%	168	43.9%	206	49.6%
屋内ケージフリー	76	20.8%	100	26.1%	119	28.5%
フリーレンジ	38	10.6%	52	13.6%	65	15.7%
オーガニック	11	3.1%	16	4.2%	22	5.4%
	363	100.0%	383	100.0%	416	100.0%

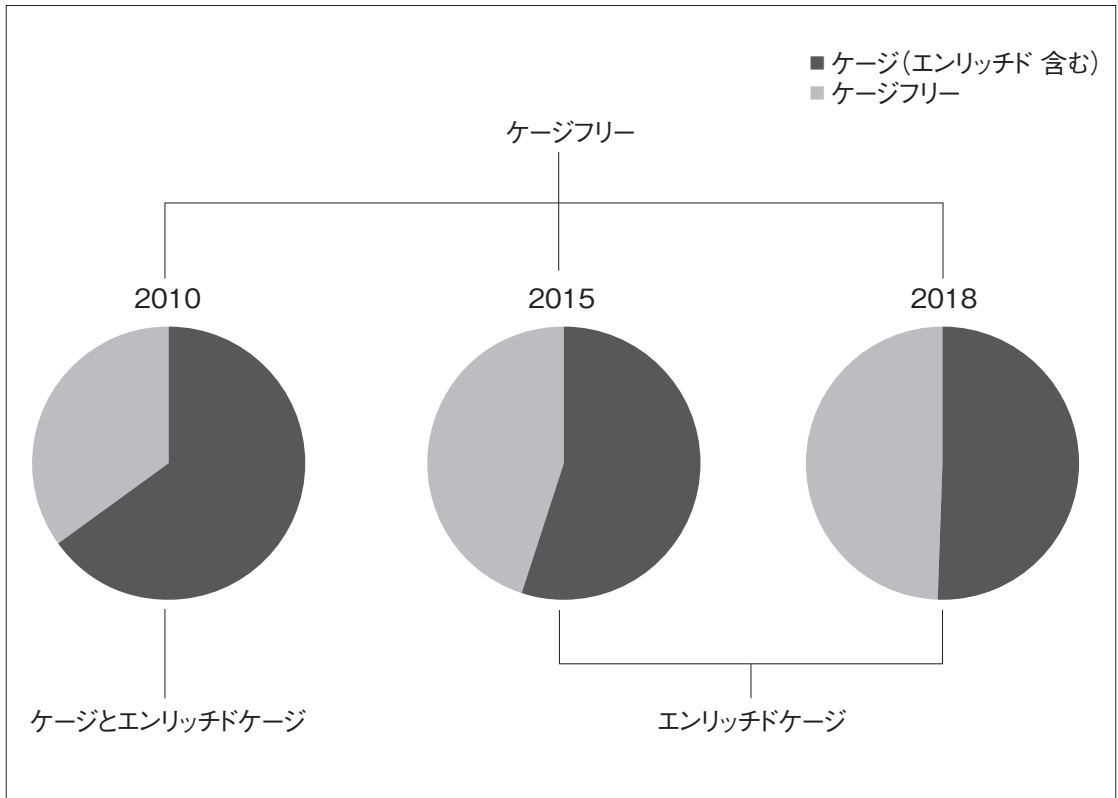


図1

(2)-(3) CMAA (United Egg Producers) 提問

UEPは米国国内の95%以上となる150の鶏卵生産者が加盟する協会である。筆者が過去にUEPを4回訪問して、関係者から話を聞いた中で印象に残った言葉を振り返ってみる。訪問年度・場所・目的は、2011年にUEP地域会議（アイオワ州）で連邦法（エッグビル）案説明会参加、2013年にUEP事務所（ジョージア州）でエッグビル動向調査、2017年にUEP事務所（ジョージア州）でケージフリー飼養方式動向調査、2019年にUEP事務所（ジョージア州）でケージ飼養禁止州法動向調査であった。

2011年8月30日にUEP地域（デモイン市）会議にオブザーバー参加した。主な議題は「UEPと米国動物愛護協会（H S U S = The Humane Society of the United States）の採卵鶏の従来型ケージ飼養禁止に関する合意」についての報告であった。合意はUEP理事会で賛成20対反対10により承認されていた。2011年7月7日にUEPとH S U Sは2億8000万羽のすべ

ての産卵鶏のために、包括的な新しい連邦法の制定に向けて共同で取り組むという前例のない合意を公表していた。この連邦法のエッグビルは、従来型の採卵鶏のバッテリーケージを段階的に禁止し、エンリッチドケージへの転換を進めるものだった。もし制定されれば、家畜の取り扱いに対処する初めての連邦法になるはずだった。UEPは全米6カ所で2011年度地域会議と題し、この合意宣言について説明会を開催したのである。席上、UEP会長のBob Krouso氏が「AWは消費者問題でなく、政治問題である」、UEP事務局長のJean Gregory氏が「これは生き残るために必要な業界合意である」と発言したのが印象に残っている。将来の採卵鶏飼養方式についてUEPはバッテリーケージを禁止し、エンリッチドケージを採用することに決めたのである。

2回目は2013年6月26日、UEP事務局長のChad Gregory（グレゴリー氏）を訪問して、エッグビルは可決されるのか否決されるのかについて聞いた。同様に印象に残った言葉は、約3時間の意見交換が終わる頃に「エッグビルの成立可能性

は無くなった」であった。その理由は、全米肉牛生産者・牛肉協会（NCBA）と全米豚肉生産者協会（NPPC）が、AWの考えを取り入れたエッグビルが養豚と肉用牛にも広がることを懸念。成立阻止に向けてロビー活動を行い、有望視されていたエッグビルを不成立に追い込んだためであった。グレゴリー氏は反対理由を次のように語っていた。

（1）米国では農家数において、養豚農家数6万5000戸と牛農家数10万戸と比較して、採卵鶏の農家戸数は200戸と少ない。（2）衛生問題で乳牛の尻尾は搾乳時に切られるが、酪農家は牛の尻尾切りが禁止になるのではと心配する。（3）

養豚農家は妊娠豚用ストール飼育の禁止を心配する（すでに、2013年1月からEUでは妊娠豚用ストール飼育が禁止されている）。

エッグビルとは、HSUSとUEPが協力して制定しようとした採卵鶏の飼養管理において2030年までにエンリッチドケージを義務化する連邦法であった。結果的にエッグビルが失敗したことで、現在のケージフリーが米国採卵鶏業界の進む方向となった。

3回目は、2017年9月20日にUEPのグレゴリー氏を再び訪問して、ケージフリーが将来の米国採卵鶏飼養方式となるのかを聞いた。グレゴリー氏から聞いた印象深い言葉がある。一つは「2025年までに全米全体羽数の約50%（約1億羽）がケージフリーに対応するのではないか」。もう一つは「2025年に売りに出ている食料品店（ケージ卵?）、つまり「ケージ卵を販売する食料品店は、自分の店を売るようになる」。店が売りに出されるとは、2025年にバターケージで生産された卵は小売店で売れなくなるという意味であろう。

4回目は、2019年9月3日にUEPのグレゴリー氏を訪問して、ケージ飼養禁止州法の動向を聞いた。HSUS等の動物愛護団体は住民投票又は法制化に向けてのロビー活動を行い、ケージ禁止州法（ケージフリー州法）成立が進んできている。現在では5州（カルフォルニア州、ワシントン州、オレゴン州、ロイドアイランド州、ミシガン州）がケージ飼養禁止州法を持っている。この5州を合わせた人口数は米国50州の19%を占めている。今後とも動物愛

護団体主導による住民投票または法制化によって、ケージ飼育を禁止する州が増えると考えられる。

（2）（4）ケージ禁止州法

米国5州は採卵鶏のケージ飼養を禁止し、4州はケージ飼養の採卵鶏が生んだ卵販売も禁止する州法を持っている。驚いたことに、米国ミシガン州は、2019年11月21日に2024年12月31日までに採卵鶏はケージフリー飼養とすると決めた。州法の内容は、2024年12月31日までに州内で採卵鶏のケージ飼養禁止、ケージ飼養の採卵鶏から生まれた卵販売を禁止するというものである。オレゴン州は、2019年8月12日に2023年12月31日までに州内で販売される卵と液卵もケージフリーとする条例に改定した。ワシントン州は、2019年5月7日に2023年12月31日までに州内で販売される卵と卵製品はケージフリーとする条例に改定した。カリフォルニア州は、2018年11月6日に12項目の州法案について住民投票を実施し、同法案は賛成多数（賛成61%対反対39%）で承認された。同法案

は州内で販売される卵を生む採卵鶏は、2021年12月31日末までに、ケージフリーの鶏舎で飼養しなければならぬとしている。ロイドアイランド州は、販売については禁止しないが、2018年7月に2026年6月30日までにケージフリー飼養にする決めた。

5州に続く州として、オハイオ州は2010年に、2020年12月まで新設ケージを停止することを決めた。マサチューセッツ州は、2016年に州の住民投票で賛成派が圧勝しケージ飼養禁止を含む州法を2021年12月までに施行予定である。上記7州の人口は全米の25%を占める。次はどの州がケージ飼養を禁止するのだろうか。

（3）米国におけるブロイラー・ニマルウェルフェアの動向

（3-1）米国のブロイラー生産について

米国の週間ブロイラー処理統計（USDA Weekly Young Chickens Slaughtered Under Federal Inspection）によると、生鳥体重別分類比較は2009年8月29日～9

表3 生鳥体重別分類 単位:ポンド(kg)

	4.25以下 (1.93kg以下)	4.26-6.25 (1.94-2.83kg)	6.26-7.75 (2.84-3.52kg)	7.76以上 (3.53kg)以上	合計
2009年					
週間処理羽数	42,083千羽	84,413千羽	22,422千羽	16,652千羽	165,570千羽
平均体重(ポンド)	3.80	5.39	6.80	8.20	5.46
平均体重(kg)	(1.72kg)	(2.44kg)	(3.08kg)	(3.72kg)	(2.48kg)
比率(%)	25%	51%	14%	10%	100%
2019年					
週間処理羽数	40,642千羽	41,291千羽	54,068千羽	38,992千羽	174,993千羽
平均体重(ポンド)	3.81	5.26	6.85	9.19	6.29
平均体重(kg)	(1.73kg)	(2.39kg)	(3.11kg)	(4.17kg)	(2.85kg)
比率(%)	23%	24%	31%	22%	100%

月4日と2019年9月15日〜21日では次の通りである(表3)。
過去10年間に平均出荷日齢は47日と変わらないが、平均出荷生鳥体重は2・48キログラムから2・85キログラムに15%増加してきた。鶏種が違っているので比較できないが、米国生鳥体重別分類では3・52キログラム以上の生鳥(平均4・17キログラム)比率が22%と高まってきた。米国と日本はブロイラー平均出荷日齢と体重においてはほぼ同じになってきている。National Chicken Councilによると、2018年のブロイラー生産性実績は、出荷日齢47日、平均生鳥体重6・26ポンド(2・84キログラム)、飼料要求率1・82、死亡率5%となっている。

**(3) 成長の遅い肉用鶏種
コウソウ**

2016年3月、GAP(Global Animal Partnership)が2024年1月までに取り扱う肉用鶏を5Gに切り替えると宣言したのを受けて、Whole Foods Market(WF)は全米で販売する約3億羽(全米約90億羽の約3%)のブロイラーを5Gに変更すると発表した。2008年に

GAPを設立したWFは2017年に1・5兆円をAmazonに買収されたので、GAPはAmazonの孫会社となる。2019年5月20日〜22日にスペインで開催されたHubbard Premium Forum資料によると、全米で次の100社が5Gに取り組んでいる。ブロイラーメインではApplegate、Perdue Farms、Wayne Farms等が含まれている。

**成長の遅い肉用鶏(5G)の取り扱い
の100社**

- ・ スーパーマーケット: Whole Foods Market、PCC Community Markets
- ・ ブロイラーメイン: Applegate、Perdue Farms、Wayne Farms
- ・ 食品加工業者: Unilever、General Mills、Campbell、Nestle USA、Kraft Heinz、Barilla、McCain Foods
- ・ 生産者: Wayne Farms、Allen Harin、Emmer & Co、Bay Valley Foods、Bell & Evans、Coleman Natural Foods、Emmaus Foods、Filet of Chicken、FreeBird、Happy N、Healthy Pet Products、Isernio、s Sausage Company

- Miller Poultry、Joyce Poultry、Perdue Farms、Tarantino Gourmet Sausages、Applegate、Welshire Farms
- ・ レストラン: Noodles and Co、Chipotle、Shake Shack、Pret A Manger、Panera、Quiznos、TGI Fridays、Starbucks、Au Bon Pain、Jack in the Box、Red Robin、Le Pain Quotidien、Burger King、Tim Hortons、Einstein Bros、Bagels、Qdoba、Ruby Tuesday、BJ、s Restaurant、Boston Market、Subway Restaurants、Fresh & Co、Garden Fresh Restaurant Corp、Dunkin、Donuts、Moe、s Southwest Grill、Schlotzsky、s、Auntie Anne、s、Cinnabon、Carvel、Caribou Coffee、Peet、s Coffee & Tea、Manhattan Bagel、Nathan、s Famous、Jamba Juice、Barnes & Noble Cafe、Benihana、EatN、Park Hospitality Group、Fresh Thymes Eatery、True Taste Kitchen、Firebirds Wood Fired Grill、Brioche Doree、Mimi、s Cafe、La Madeleine、French Bakery & Cafe、Papa John、s Pizza、Jack、s Family

(4) 国内における養鶏アニマルウェルフェアの動向

国内におけるAWに関する2つの動きを紹介したい。2018年9月に設立された一般社団法人日本赤鶏協会（横尾和浩代表、株ヨコオ社長）会員の14団体はAW普及活動も行っている。同協会はコンセプトについて「赤鶏商品はグルメ鶏のひとつとしてある程度の認知を得るまでになっています。一方で、消費者にはブロイラー系銘柄鶏と混同されることが多いのも実情です。アニマルウェルフェアが徐々に注目されつつある今、自然に育つスロー・グロウスが鶏にやさしいということ、そしてそれが味わいという品質につながるということを、日本赤鶏協会が日本中に知らしめる使命を持っています」としている。

2020年に国産鶏種と飼料米の活用等を要求事項とする新たな持続可能な生産方法で生産された鶏卵・鶏肉の日本農林規格（JAS）が制定され、AWへの配慮が次のようにJASに初めて書き込まれる。「アニマルウェルフェアの考え方に基づ

き、卵用鶏及び肉用鶏の飼養環境の改善に取り組みなければならぬ。注記・アニマルウェルフェアへの取組については、アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針（公益社団法人畜産技術協会）を参考とすることが考えられる」

(5) まとめ

世界的な養鶏AWの長期的課題に對して、国内採卵鶏業界はケージフリー飼養に、国内肉用鶏業界は成長の遅い鶏種にどう取り組んでいくのだろうか。